

グリーティング

秋になると思い出すのは長野県小布施(おぶせ)町です。私は新潟に用があり、上信越自動車道を北に進んでいました。自宅を出てかれこれ3時間。お昼ごはんを兼ねてのひと休みのつもりで、小布施に入ったのでした。駐車場はどこかのお宅の庭先の料金箱にコインを入れる、といったのどかさが嬉しくなりました。天気恵まれ気分の良いドライブでしたが、車を降りると風はさわやかで、思わず両手を挙げて体を伸ばしました。陽光はやさしく、まわりの景色は、子供の頃に訪ねた田舎の親戚を思い出すなつかしさでした。ひょっとすると長居しそう・・・予感はズバリで、歩き始めるとリンゴ畑に栗畑、白菜やネギも元気そう。瓦屋根の家々、手入れされた花いっぱい庭。10分位歩いて町の中心に出ました。しゃれたカフェや古民家の食事処が並び、北斎館がありました。なんと葛飾北斎は、80才を越えてから徒歩で(!!)何度も江戸から小布施を訪れ、画業に励んだのです。そのパワーに圧倒されエネルギーをたくさんもらいました。

ちょっと立寄っただけでしたが、思いがけないすばらしい秋の一日になったのです。

S.K



小布施 岩松院本堂の天井画
『八方睨鳳凰図』
北斎88才の肉筆画で畳21畳の
大きさ。およそ170年前の作品で
岩絵の具の赤や緑があざやかです

技工情報

◎ 支台歯の材料による影響

透過性の高いジルコニアを使用する場合、下地色の影響を受け易くなります。

<メタルコアとレジンコアによる最終補綴物の色調の比較>



支台歯がメタルコアの場合は、全体的に暗く仕上がります。

特に、補綴物が薄くなり易い、歯頸部、咬合面中央部においては、メタル色の透過が顕著に表れてしまいます。

レジンコアの場合は、下地色の影響を受ける事が無く審美的には高い仕上がりになります。